

秋色を愛でる — 近代日本画を中心に —

2020年10月27日(火) - 12月13日(日)

日本画の特徴の一つとして、四季折々の風情を大切にすることが挙げられます。季節に合わせて部屋を彩る日本画に、季節感が求められるのは自然なことと言えるでしょう。本展では館蔵・寄託の近代日本画を中心に、秋を描いた作品をご紹介します。美術館で秋をお楽しみください。



上村松園《晩秋》 昭和18年(1943)
本館蔵(住友コレクション)

写経 — 天平から鎌倉へ

2020年10月27日(火) - 12月13日(日)



《紫紙金字華嚴経断簡》(部分)
奈良時代・8世紀 個人蔵

6世紀に仏教が日本に伝わると、7世紀には写経が行われるようになり、天平時代に至ってその最盛期を迎えます。「天平礼賛」展にあわせ、奈良から平安、鎌倉へと、時代の変遷とともに書体や装飾の姿を変えていく写経の美をご覧ください。

高き空から — 仏教美術 —

2020年10月27日(火) - 12月13日(日)

この国の人々は遙か空の向こうに仏や菩薩などの超越的な存在をみとめ、憧れを抱いてきました。仏教美術は、そうした憧憬に突き動かされた人々により生み出されたものと言えるでしょう。

本展では、近畿一円の寺社よりお預かりしているご宝物を中心に、仏教美術の優品を展示いたします。同時開催の特別展「天平礼賛」と合わせ、先人たちの祈りの造形の数々をお楽しみください。



重要文化財《業師十二神将像》(部分)
平安時代・仁安3年(1168) 京都・仁和寺蔵

しょうじゅせんねん つい これく 松樹千年、終に是朽ちぬ — 絵画の中の自然美

2021年1月9日(土) - 2月7日(日)

松は冬でも青く茂り、永く変わらない姿は繁栄の象徴です。しかし、千年の松樹といえどもいずれは枯れてしまいます。不変であることだけが価値ではなく、みじかく移ろう中にもまた美しさがあります。中国では、自然と人の生とはつねに連関して捉えられ、絵画の中にも表現されてきました。日常がおおきく揺らいだ昨今、先人の美意識に人生のヒントを探してみても良いかもしれません。



顧大申《老松飛瀑図》(部分)
清時代・康熙3年(1664)
本館蔵(阿部コレクション)

みわだべいざん 生誕200年 三輪田米山

— 大阪中之島美術館山本發次郎コレクション

2021年1月9日(土) - 2月7日(日)



三輪田米山《無為》 明治時代・18-19世紀
大阪中之島美術館蔵

三輪田米山(1821-1908)は、江戸から明治にかけての愛媛松山の神官で、斗酒をあおって揮毫した書は、豪放な筆法、雄大な気宇で人気を博しています。その米山を「我が国近世五百年間不世出の大書家」と激賞して全国に知らしめたのは、他ならぬ山本發次郎でした。

富士礼賛 — 近世絵画を中心に —

2021年1月9日(土) - 2月7日(日)

世界文化遺産にも登録される富士山は、古より信仰の対象となり、様々な芸術の源泉にもなってきました。江戸時代には富士講が流行したこともあり、富士を描いた作品が多く見られます。本展では館蔵・寄託の近世絵画を中心に、富士を描いた作品をご紹介します。



中林竹洞《神州奇観図》 江戸時代・天保8年(1837) 個人蔵